アマチュア・オーケストラ

'74新響サマーコンサート

白鳥の湖
カルメン・ガイーヌ

白鳥の湖　カルメン　ガイーヌ　'74新響サマーコンサート

SWAN LAKE　CARMEN　GAYNE
THE NEW SYMPHONY ORCHESTRA SUMMER CONCERT '74

指　揮　芥　川　也寸志
Conductor　Yasushi Akutagawa

おはなし　黒　柳　徹　子（東京公演）
Narrater　Tetsuko Kuroyanagi

芥　川　也寸志（横浜公演）
Yasushi Akutagawa

曲　目　PROGRAM

I　舞踊組曲「ガイーヌ」より……アラム・ハチャトリアン
from the Suite "Gayne Ballet" ……Aram Khachaturian

第1組曲　剣の舞――子守唄――ばらの乙女たちの踊り
Suite No. 1　Sabre Dance――Lullaby ――Dance of the Rose Maidens

第1組曲A　クルトの若者たちの踊り――レズギンカ
Suite No. 1A　Dance of the Young Kurds ――Lesginka

II　「カルメン」第1組曲……ジョルジ・ビゼー
1st Orchestra Suite from the Opera "Carmen" ……George Bizet

1. 前奏曲――アラゴネーズ
Prélude ――Aragonaise
2. 間奏曲
Intermezzo
3. セギディーリャ
Seguedille
4. アルカラの竜騎兵
Les dragons d'Alcara
5. 闘牛士の歌
Les Toréadors

「アルルの女」組曲より「ファランドール」　(2. 間奏曲のあとに演奏)
"Farandole" from the Opera "L'Arlesienne"

III　舞踊音楽「白鳥の湖」より……（ナレーション付）……ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー
from the Ballet "Le Lac des Cygnes" …… Peter Ilyich Tchaikovsky

序奏――ワルツ――コーダ――情景――四羽の白鳥の踊り――テンポ・ディ・ヴァルス―
Introduction ――Valse ――Coda ――Scène ――Danses des Cygnes――Tempo di Valse ――
情景――第三幕幕開――ハンガリアの踊り――スペインの踊り――ナポリの踊り――
Scène ――Allegro giusto ――Danse Hongroise ――Danse Espagnole ――Danse Napolitaine ―
――コーダ――フィナーレ
――Coda ――Scène Finale

1974年8月10日(土) 午後7時　東京文化会館大ホール
1974年8月25日(日) 午後2時　神奈川県立音楽堂

——音楽監督・常任指揮者——

芥川也寸志

Yasushi Akutagawa



1925年　東京生まれ。
1949年　東京音楽学校研究科作曲部を卒業。作曲を伊福部昭氏、指揮を渡辺暁氏氏に師事。
＜作品＞交響三章、トリプティク、交響曲第1番、エローラ交響曲、オスティナート・シンフォニコ、オペラ「広島のオルフェ」、チェロとオーケストラのためのコンチェルト・オスティナート他。
＜著書＞音楽の現場、私の音楽談義、音楽を愛する人に、音楽の基礎、音楽の遊園地。

新響創立以来の常任指揮者、毎週土曜日に殆んど欠かさず新響を振るその情熱は、「アマチュアには、アマチュアらしい、プロには絶対にない素晴らしさがなければならない。スポーツの世界にも通じるような、練習に練習を重ね、ただひたすらに自分たちの音楽を追求しようとする純粋な心。これにのみ支えられた輝くアマチュアリズムがなければならない」という信念に支えられているといえましょう。

現在、作曲活動のほかにヤマハ音楽振興財団の専務理事として新しい音楽教育システムづくりを企画するなど、多彩な生活を送られています。

——東京公演　おはなし——

黒柳徹子

Tetsuko Kuroyanagi



東京　乃木坂生れ。洗足池畔育ち。
赤松小学校入学。1年足らずのうち、何故か退学を命ぜられ、トモエ学園に転校。何故か優秀なる成績にて卒業。香蘭女学校も無事に卒業。東洋音楽大学　声楽科に入学。コロラテューラ・ソプラノを志すが、何故か耳鼻咽喉科にての検診をすすめられる。同校卒業。何故か音楽評論家たらんとして慶応大学美学部に入学。この年、1954年、ＮＨＫ放送劇団員となる。試験問題、25問中、20問　出来ざれど何故か採用さる。テレビ初出演は通行人として、笠置シズ子さんの後をウロウロ、何故か、本番直前におろされる。

ラジオ初出演は「ヤン坊ニン坊トン坊」。以来テレビ「魔法のじゅうたん」「若い季節」「夢で逢いましょう」「ステージ101」「蘭子ひとり」などＮＨＫ専属として数多く出演。帝劇、芸術座、日生劇場、紀伊国屋ホールなど舞台出演も多い。その間劇団文学座研究所卒業。

1971年より1年間　ニューヨーク滞在。
現在、ＮＥＴ「13時ショー」の司会、ＮＨＫ「銀座わが町」、ＴＢＳ「火曜歌謡ビッグマッチ」に出演中。第1回放送作家協会女優賞、ＮＨＫ芸能局長賞、劇団ＮＬＴに客演中　芸術祭優秀賞、3年連続ＣＭタレント賞、などを受賞。
著書に「パンダと私」「チャックより愛をこめて」等がある。

曲目解説

舞踊組曲「ガィーヌ」　　ハチャトリアン

有名な「剣の舞」をその中に含んだ舞踊音楽「ガィーヌ」を作曲したのは、現代ソヴィエト作曲界の大御所として、ショスタコーヴィッチと並び称せられるアラム・ハチャトリアンです。

ハチャトリアンは、現在グルジアの首都になっているトビリシに、１９０３年に生まれました。アルメニア人です。ソヴィエトは、いくつかの国が集まって、一つの共和国を形成していますから、同じソヴィエトの人と言っても、その中にはいるいろんな民族が存在するわけです。言うまでもなく、ソヴィエトにおいて主要な民族はロシア人です。しかし、ハチャトリアンは、アジアと国境を接するグルジアに生まれたアルメニア人なわけです。そのことは彼の音楽の特質に決定的な影響を与えています。人間は先祖から受け継いだ血と伝統と環境とのほとんど絶対的な影響の下に育ちます。別に音楽に限ったわけではありませんが、日本人が創作したものは、外国人から見れば、その中に日本的な何かを発見するに違いありません。したがって、ハチャトリアンの作品の中に、純粋なロシア人の作曲したものとの相異を発見することができるのもまた至極当たり前のことと言うことができるでしょう。しかもハチャトリアンの場合、意識的に、彼の故郷である外コーカサスの民謡を自己の作品の中に取り入れているのです。例えば、半音階法でかかれた東洋風の節回しとか、四音音階に基づいたものや、古代民謡アシューグなどが彼の作品の中でよく使われています。さらに「ガイーヌ」の中の「剣の舞」における打楽器的リズムなども好例なのです。

以上のようにハチャトリアンの作品は、彼の育った外コーカサスの民族音楽に基礎をおいているのですが、その中でも、それをもっとも直接的な形で表現しているのが、ほかならぬ今日のプログラムの１つである。「ガイーヌ」の音楽なのです。この作品の中には、作曲と言うよりは、むしろ編曲と言った方がよいのではないかと思われるナンバーも少なくありません。そういう自作と編曲のすれすれのところをいったと言えるような作品が、ハチャトリアンの最高傑作になっているということは興味深いことです。

「ガイーヌ」は第２次大戦の最中１９４１年に作曲が開始され、42年に初演されました。これはアルメニアの一地方のコルホーズ（集団農場）を舞台にした３幕もののバレーです。

物語の概要を述べますと、コルホーズで働く娘ガイーヌが、ギコという男と結婚します。ガイーヌは何も知らずに結婚するのですが、ギコは実は密輸をしたりする悪人なのです。やがて彼の正体を知ったガイーヌは自首をすすめますが、きき入れられず、遂に殺されそうになります。そのとき運よく通りかかった警備隊長カザコフに助けられてガイーヌとカザコフは愛しあうようになり、結婚するというストーリーです。

現在では音楽の部分は作曲者自身が編曲した第一組曲、第一組曲ａ、第二組曲の三つの組曲として知られています。今日の演奏会では第一組曲、第一組曲ａの中から「剣の舞」「子守歌」「ばらの乙女の踊り」「クルトの若者の踊り」「レズギンカ」の５曲が演奏されますが、これらは民族調で、全体にユーモラスなリズムにささえられた、しゃれた情緒が漂っています。前述したような、ハチャトリアンの音楽の独特なリズムや雰囲気などを充分に味わっていただきたいと思います。

「カルメン」組曲　　ビゼー

ビゼーの「カルメン」はフランス国内においては、ドビュッシーのオペラ「ペレアスとメリザンド」と共にフランス国民オペラの双璧とされています。さらにビゼーは、「カルメン」この一作によって、史上でドイツのワーグナーおよびイタリアのヴェルディの両巨匠に近似した意味の寄与をフランスにしたと認められています。芸術作品の価値の大きさと、その作品の人気とが必ずしも正比例するとは限りませんが、その作品と創作者にとって、幸か不幸かを論ずるとすれば、できるだけ多くの人

合唱団“鯨”演奏会（管弦楽＝新交響楽団）

日時・会場　10月14日(月) 午後７時　日比谷公会堂

曲　　目　未完成オラトリオ“CHRISTUS”（オーケストラ本邦初演）……メンデルスゾーン
金管楽器と混声合唱のためのマニフィカート……ヘルマン・シュレーダー
テ・デウム……ヴェルディ
（以上オーケストラ伴奏付）
MISSA PSALMODICA（本邦初演）……ヘルマン・シュレーダー他

指　　揮　中村　健

入 場 料　未定

＜問　合＞　合唱団“鯨”事務所　357-5255(火曜午後)
〒160 新宿区須賀町14　大湊ビル

曲目解説

々に受け入れられ歓迎される方が幸福であるということは言うまでもないことでしょう。その意味でも、「カルメン」は現在、最高の幸福を満喫していることでしょう。

「カルメン」は、１８７５年３月３日に、パリのオペラ・コミック座で初演されました。真にすぐれた芸術作品というものは、その中に、今まで大多数の人々が信じてきた価値というものを部分的にしろ、否定ないし改変しようとする、一種挑戦的な内容を含んでいるものです。したがって、そういう新しい価値観の提示故に、すぐには大衆に理解されず、発表した時点においては悪評を買うということが多いのです。こうしたことは音楽の世界に限られたことではありません。人間の社会のあらゆる分野において、そういうことが言えるでしょう。「カルメン」も、そういう例に漏れず「舞台にのせるには常軌を逸した作品」とか「ワーグナーの亜流である」とか「何の興味も寄せられない危険な作品」という風に酷評されました。しかし、結局は、本当にすぐれた作品は、いずれは認められ、受け入れられていくわけで、「カルメン」の初演は不評でしたが、次第に客足は増えていくのです。しかし、残念なことに、ビゼーはこのオペラの完全な成功を自ら知ることなく、初演されてから３ヶ月後の６月３日にまだ３６才という若さで忽然と他界してしまったのでした。

このオペラは、プロスペル・メリメの同名の小説をもとにしたものです。現在でこそ、メリメの小説「カルメン」は名作として名高いのですが、発表された当初はあまり話題とはなりませんでした。むしろ、ビゼーのオペラの成功によもなって、この小説の真価が認められるに到ったと言ってよいのです。音楽の世界におけるビゼーの才能と文学の世界におけるメリメの才能が合体することによって、「カルメン」というオペラの最高傑作が誕生することになったのです。音楽家と小説家の偶然の出会いが実に幸福な形で結実した一つの好例です。オペラにおける台本は、ビゼーの友人であるアレヴィとメイヤックが書いています。

物語は、魅惑的で気まぐれなジプシー女カルメンと竜騎兵ドン・ホセ、闘牛士のエスカミーリョの３人との間の三角関係をめぐって展開しています。

舞台は１８２０年頃のスペインのセヴィーリヤです。タバコ工場で働く女工たちが、お昼休みになったので外に出てきました。女工たちのあとから、やはりその工場で働いているカルメンが登場しますが、すぐにカルメンに好意をもつ男たちにかこまれます。しかしカルメンは男たちを軽くあしらい、自分に無関心なドン・ホセに興味をひかれ、彼に近づいていた花を投げ与えます。
ホセはカルメンに魅力を感じて、その花をひろいあげたとき、ホセの許婚者であるミカエラが登場します。ホセはミカエラとの対面によって、現実にひき戻され、カルメンの誘惑に陥りかけたことを思ってゾッとしてしまいます。そして、その場でミカエラとの結婚を決意しました。そうこうしているうちに、彼はカルメンと一人の女工との喧嘩にまきこまれてしまいます。そしてたった今、ミカエラとの結婚を決意したばかりなのに、ふたたびカルメンの魅力にまどわされ、喧嘩がもとで牢送りになった彼女を逃がします。カルメンが逃げたことに驚いた人々の騒ぎの中で第一幕は閉じられます。

第二幕は、酒場で逃げたカルメンやジプシーの男女が陽気に騒いでいる所から幕があきます。やがで闘牛士のエスカミーリヨが登場してきます。彼が退場したあと密輸入業者が数人来て、カルメンに密輸の仕事に手を貸すように誘います。しかし、カルメンは自分を助けてくれたホセに恋していることを告げ、彼の来訪を待つため、誘いを断わります。そして、やってきたホセの機嫌をとりますが、帰営ラッパをきいたホセは、帰らなくてはならないため、カルメンの機嫌をそこねます。そこで、ホセは仕方なく、密輸入業者の仲間に入れられ、カルメンや他のジプシー女と共に山に行くのです。

第三幕の舞台は山に移ります。山には密輸入した荷物を運ぶという仕事が待っているのでした。ホセは、山で、もの思いに沈んでいます。カルメンが訳をたずねると彼

新響第28回定期演奏会

日時・会場　12月15日(日) 午後2時　　東京文化会館大ホール
曲　　目　交響曲第8番……ベートーベン
「トリプティク」……芥川也寸志
舞踊組曲「ペトルーシュカ」……ストラビンスキー
指　　揮　芥川也寸志　　**入場料**　S1000　A：800　B：500　C：300（全席指定）

前売券発売は10月初旬から都内プレイガイドにて、維持会員、登録会員の方々には10月下旬にご案内申上げます。

曲目解説

は、カルメンのために、軍人の名誉もすて、しかも密輸の仕事までもしかければならないことが、イヤになり、家や母のことを思い出していたのだと言います。それをきいたカルメンが、彼に冷たい態度を示したため、ホセはカッとなります。しかしカルメンは全く動じません。気をとり直したホセは、仕事を始めますが、そのとき彼をたずねてきたミカエラに会い、彼の母が死にかけていることを知ります。彼は驚きました。しかし、ミカエラに会う前にカルメンに会いに来たエスカミーリヨとカルメンをめぐって争ったので、カルメンを山に残して帰りたくなかったのです。が、事情が事情なので、ひとまずホセはミカエラと共に山を降りることにしました。

さて第四幕は闘牛の試合場での出来事です。カルメンと一諸にいたエスカミーリヨが闘牛場に姿を消したあとに、ホセとカルメンが出会います。すでにエスカミーリヨに心を移したカルメンはホセに言い寄られても彼を冷たくあしらいます。その態度に怒り狂ったホセは、カルメンを刺し殺してしまいます。そして人々が、その事件に気付いて立ちすくみ、自らの手で殺したカルメンの上にホセが身を投げて悲しむところで幕が降りるのです。

スペイン色の非常に濃厚なこのオペラは、劇中の音楽だけをきいていてもおもしろく、多くの名曲も含んでいるために歌の部分が楽器でも演奏できるように編曲され、オーケストラでもしばしば演奏されています。中でも特に知られた音楽と言えば、「闘牛士の歌」や「ハバネラ」などです。組曲には第一組曲と第二組曲がありますが、今日は第一組曲（前奏曲、アラゴネーズ、間奏曲、セギディーリャ・アルカラの竜騎兵）と第二組曲から「闘牛士の歌」が演奏されます。

「アルルの女」組曲　　ビゼー

「アルルの女は、オペラ「カルメン」よりも3・4年前の１８７２年に初演されました。

この曲はドーデの戯曲「アルルの女」の劇中音楽として作曲されたもので、全体は２７曲から成っています。その中からビゼー自身が4曲選んで組にしたものと、ギローという人が他の4曲を選んで組にしたものが組曲として残っています。前者を第一組曲（前奏曲・メヌエット・アダージェット・鐘）、後者を第二組曲（牧歌、間奏曲、メヌエット・ファランドール）としていますが、現在ではフルートの独奏などで単独でも演奏されるメヌエットを含む、第二組曲の方がよく知られています。

ビゼーの音楽は優美で明るく、そして素朴であり、クラシック音楽愛好家といえるほど普段はクラシック音楽に接していない人にでも容易になじむことのできる魅力を持っていますが、それらの諸特徴は、この「アルルの女」にもあますところなく盛りこまれていると言えるでしょう。

舞踊音楽「白鳥の湖」　　チャイコフスキー

チャイコフスキーの作品で重要な位置を占めているものに、「白鳥の湖」「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」という三大バレー音楽があります。その中でも四幕から成り立っている「白鳥の湖」は、俗に「瀕死の白鳥」とか「白鳥のテーマ」とか言われ、知らない人がいない位に有名な旋律を持っており、バレー界の大切なレパートリーの一つに数えられています。しかし、今日でこそ素晴らしい人気を得ているこの曲も、１８７５年から７６年にかけて着手、作曲され、７７年に初演された当時から、成功をおさめ、受け入れられていた訳ではありません。それどころか、ビゼーの「カルメン」同様、当時上演されたときには大変な悪評を受け、チャイコフスキーの生存中はついに真価を認められることはなかったのです。初演の失敗の原因としては、当時のロシアバレーが程度の低い楽しみのためのものに堕落していたということがあげられています。例えば、鑑賞しようとするお客が、プリマ・ドンナの美しい容姿を見るということを主目的としていたりしたわけです。第２に、舞踊音楽が踊りの伴奏をするだけのものであったりして芸術的な価値というものが、ほとんど認められなかったということが

アマチュア初のストラビンスキー３部作一挙演奏

―― 新交響楽団第２９回定期演奏会 ――

曲　　目　舞踊組曲　「火の鳥」……ストラビンスキー
舞踊組曲　「ペトルーシュカ」……ストラビンスキー
舞踊組曲　「春の祭典」……ストラビンスキー

指　　揮　芥川也寸志

日時・会場　昭和50年６月上旬　　会場未定　　**入場料**　S：1000　A：800　B：500（全席指定）

あります。第3に、振付者や指揮者の才能もお粗末なものであったということなどを指摘できるでしょう。しかし、それらと共にやはり「白鳥の湖」においても、チャイコフスキーのバレー音楽の新しさが聴衆を戸惑わせてしまったということも、公演が成功しなかった大きな理由の一つと考えられます。チャイコフスキーにとってバレー音楽というものは、新しい分野だったのですが、彼の音楽は当時の舞踊音楽とは異なり、単にバレーに付随しているだけというものではなく、物語の心理的効果を高める上で重要な役割を果たしているのです。それはバレーと音楽が密接に結びついた総合芸術的な世界と言ってよいのかも知れません。ここでおもしろいことは初演失敗の原因が、聴衆や劇場側にあったのにもかかわらず、内気なチャイコフスキーは、それは自分自身の責任だと感じ、死ぬまで改作を考えていたということです。（しかし、1895年にペテルブルグでの上演に際して振付を変えたときには成功をおさめています。）

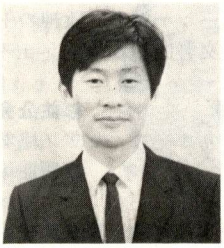
とにかく、こうした様々な経過をたどりながら、「白鳥の湖」は今日の地位を築きあげてゆきました。

バレーは、はなやかな成人式の場面から始まります。成人式を迎えるのはジークフリート王子であり、式の会場には村娘や若者たちや友人ベンノが集まってきます。式は盛りあがっていきますが、やがてジークフリートの母親が登場し、彼に婚約者を選ぶように言います。しかし気に入った人がいないため、彼は困ってしまいます。そのうちに次第に日は暮れていきますが、ふと外をながめると、日暮の空に白鳥が一羽飛んでいきます。それを見つけた友人ベンノは淋しげなジークフリートに、白鳥を射るために湖へ行こうとすすめます。誘いに応じてジークフリートはベンノと共に出かけて行きました。湖に着いたジークフリートは、そこで、「私達白鳥をいじめないで下さい」と頼むオデット姫に出会い、彼女から、「私はもともとは人間であるが、悪魔ロトバルトにだまされて魔法をかけられ白鳥になってしまった。夜の間だけ人間の姿に戻ることができる」という身の上話をききます。オデットに恋心をいだいたジークフリートは、彼女を婚約者に選ぶ決心をしました。お城に帰った彼は、母親の紹介した娘には全く興味を示さず、オデットが来るのを待ちます。ところが現われたのはオデットではなく、悪魔のロトバルトとオデットに化けたその娘オディルです。そうとは知らないジークフリートは、オディルを婚約者にしたいのだと話してしまいます。計画が成功したロトバルトはオディルを連れて姿を消しますが、すぐにジークフリートは自分の過ちに気付きました。オデットも心配になって様子を見に行きますが、事実を知り、悲しみに打ちひしがれて湖に帰ってきます。ジークフリートは湖に行ってオデットに許しを請います。そして死んで一諸になりたいという思いにとらわれて湖に身を投げます。すると二人の愛の強さに突然魔法がとけてオデットは人間の姿に戻ることができ、お互いに抱きあって昇天するのです。
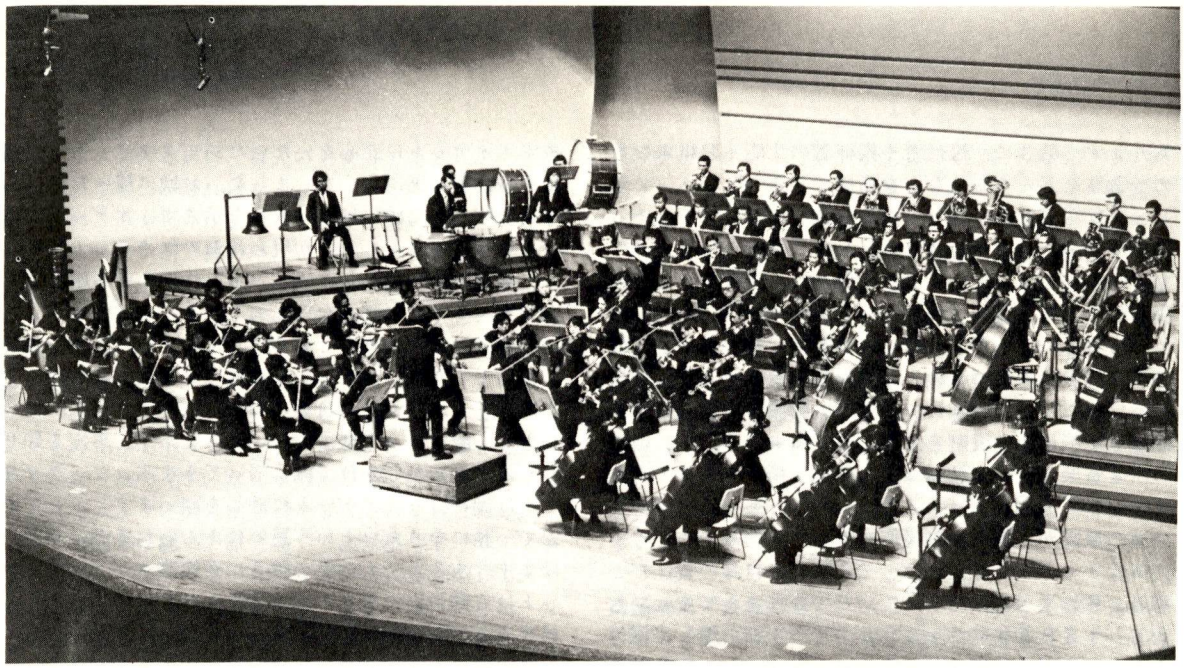
この曲はバレーと共にではなく、その音楽だけを独立に演奏しても充分に魅力に富むので、抜粋され、組曲として演奏されることがよくあります。選曲方法としては、定まった形はないので40曲近い曲の中から適当に選ばれるのが普通になっています。

チャイコフスキーは、バレーの各情景を音によって巧みにえがきわけ、バレーに匹敵するような地位にまで音楽を高めました。そして、その音楽の中に、チャイコフスキー特有の哀愁と感傷を含んだ甘く美しいメロディーを、しばしばききとることができるのです。（西村はるみ＝上野学園大学ピアノ科3年生）

≪ミニ・ニュース≫ 新響指揮者小林研一郎・ブダペスト国際指揮者コンクールで優勝



5月12日迄ハンガリーの首都ブダペストで開かれたブダペスト国際指揮者コンクールは世界12ヵ国から36人（日本から5人）が参加したが、4次選考を経た本選にて審査員全員一致で小林氏の第1位が決定した。コンクールのあとハンガリー国営放送の公開演奏会がリスト音楽院ホールで開かれ、審査員の1人ボスコフスキー氏からクレンペラー以来の美しい「田園」であると絶賛された。帰国後の東フィル、新日フィル、東響の演奏会は常に満員の聴衆を集めており、日本の生んだ国際的指揮者としての地歩を固めつつある。50年には渡欧し、ハンガリー国立交響楽団、ウィーンフィルハーモニーなどを客演指揮することになっている。



新交響楽団（アマチュア・オーケストラ）

音楽の楽しみ方、接し方にはいろいろありますが、新交響楽団は、楽器を大勢の仲間と演奏することにかえがたい喜びを見出しているいわゆるアマチュアの集りです。

オーケストラの中で奏くことはしかし、自らが楽しむだけでは不充分だと私達は考えています。より多くの方々に演奏を聴いて頂くことが、団員のはげみになり、更に多くの人々が聴きにきて下さるようになることが新交響楽団の目的なのです。そのために、演奏会のたびに団員に課せられるノルマは絶対必要なことと考えられています。いつの日か、いつも満員の聴衆を前に演奏できるようになることを夢見て団員は頑張っています。

新交響楽団は昭和31年芥川也寸志氏を中心として発足以来、音楽鑑賞組織内のオーケストラとして成長しましたが41年に独立して以降、どこからの援助も受けずに月々の団費と演奏会の収益のみによってまかなわれています。その間団員のいれ替りが思いのほか激しいことがアマチュアオーケストラの運営のむつかしさを物語っています。

これまでは上手なメンバーが増えることによってオーケストラの技術も向上してきた面もありますが、オーケストラの技術はメンバーの交替という次元でなく、技術を越えたアンサンブルによって評価されるとすれば、これからはアンサンブルの向上をめざさねばなりますまい。

またアマチュアはある意味で（常に自発的であり音楽以外の要素がない）プロより音楽の楽しみ方で、又その表現する感動に於て数段有利な位置にあるということが言われます。ともすれば、これをかくれみのとして好き勝手をすることがアマチュアであると考えられているようですが絶対そうあってはならないとも考えています。

最近の主な演奏会

1973年

8月18日　サマーコンサート　　東京文化会館大ホール
交響曲第6番「田園」＝ベートーヴェン、ピーターと狼＝プロコフィエフ（語り手：浪花千栄子）、パリのアメリカ人＝ガーシュウィン

8月25日　アマチュア音楽の祭典出演　　杉並・普門館
スラブ行進曲＝チャイコフスキー、パリのアメリカ人＝ガーシュウィン、合同演奏曲「よろこび」＝石井　歓（よろこびのみ指揮：春日　学）

11月5日　第26回定期演奏会　中野・サンプラザホール
交響曲第4番「イタリア」＝メンデルスゾーン、ピアノ協奏曲第26番「戴冠式」＝モーツァルト（独奏：小栗豊）、舞踊組曲「火の鳥」＝ストラビンスキー

12月10・21日　第九特別演奏会　　サンプラザホール
“前奏曲とイゾルデの愛の死”＝ワーグナー、交響曲第9番「合唱付」＝ベートーヴェン

12月25日　第九依頼演奏会　　サンプラザホール
交響曲第9番＝ベートーヴェン（指揮：小林研一郎）

1974年3月31日　第27回定期演奏会
新響とショスタコービッチ　　東京文化会館
交響曲第35番「ハフナー」＝モーツァルト、牧神の午後への前奏曲＝ドビュッシー、交響曲第5番＝ショスタコービッチ

5月17日　芥川也寸志と弘中　孝　　杉並公会堂
「ローマの謝肉祭」序曲＝ベルリオーズ、ピアノ協奏曲第4番＝ベートーベン（ピアノ：弘中孝）、交響曲第8番＝ドボルザーク

6月2日　六大学混声合唱連盟定期賛助　東京文化会館
レクイエム（1, 2, 4, 7）＝ヴェルディ（指揮：小林研一郎）
（指揮は特記以外　芥川也寸志）

新響・団員募集中！　（特にヴァイオリン、チェロ奏者を求む）

入団希望者に対しては原則として、月の最終日曜日の午後、オーディションを行ない、新響のレベル、パート人員の必要度、本人の環境、入団意志などを考慮して決定します。
オーディションは、課題曲(下記)、自由席、初見のアンサンブル曲を演奏していただきます。

〔課題曲〕

Vn　モーツァルト　協奏曲第５第１楽章
Vla　エックレス　ソナタ　第２楽章
Vc　ヴィヴァルディ　ソナタ第５第２楽章
Cb　カプッツィ　協奏曲　第１楽章
Fl　モーツァルト　協奏曲二長第１楽章
Ob　ヘンデル　ソナタ第１第１楽章
Cl　ウェーバー　小協奏曲　第１楽章
Fg　モーツァルト　協奏曲　第１楽章
Hr　モーツァルト　協奏曲第３第１楽章
Tp　ハイドン　協奏曲　第２楽章
Tb　R.コルサコフ　協奏曲 第1,2楽章
Tub　ワーグナー　マイスタージンガー
（楽譜のない方はコピーをお貸します）

〔オーディション日程〕

９月１日(日)　午後１時
９月29日(日)　午前11時
10月27日(日)　午後１時
11月24日(日)　午後１時

〔問合せ先〕

① 団員をご存知の方は団員を通して。
② それ以外の方は人事担当の橋谷幸男まで。
自宅332-4075，会社563-4451内292（キクナス石油 営業計画課）

〔申込先・オーディション場所〕

〒160 新宿区須賀町14 大湊ビル　**新交響楽団** TEL 357-5255
国電信濃町と地下鉄四谷三丁目の丁度中間、どちらからも徒歩6分、2つ目の信号、八百屋裏CPA学院のビル4F

新響維持会員募集中!!

音楽を愛する大勢の方々の支持のもとに演奏活動が行なわれることがこれからのオーケストラ活動のあり方と信じ、維持会員制度を発足させました。▶年額1口(1200円)以上、▶今後１年間ご案内をさしあげる２回の演奏会に自由にご入場なれます。▶定期演奏会プログラムにご芳名を掲載します。▶ご来場の方にはプログラム贈呈。▶その他新響の全ての演奏会入場券が優先的に1割引で購入できます。▶住所・氏名・年令・職業明記の上現金書留で下記迄。（維持会員申込と付記）

〒160 新宿区須賀町14大湊ビル 郵便振替口座 東京177071
新交響楽団 357-5255

新響登録会員募集中!!

▶入会金はいりません。
▶演奏会の案内を往復ハガキで毎回お送りしますので、入場券ご希望の時お申込みください。
▶プログラムを無料でさしあげます。
▶申込はハガキにて、住所(TEL)、氏名、年令、職業明記の上、下記事務所まで。

(オーケストラの名曲800選)リスト頒賦中

音楽鑑賞、レコード蒐集の手引に、古今の無数の管弦楽曲の中から 800曲を選び、索引、演奏時間を付記。申込は左記事務所迄。140円(20円切手可)

器楽合奏を愛する人々の連絡組織APA(エイパ)に入会しませんか！

ＡＰＡは器楽合奏を愛する多くの方々を会員とし、名簿を発行することによって、思いがけない近くに同好の志のいることを知ったり、不足のパートを補ったりすることを目的として、去る６月に設立されました。現在400人の会員は首都圏に350人が集中していますので、どうしても東京中心になってしまいますが、だんだん地方にもその輪は広がって行くことでしょう。

400人の会員を掲載した名簿も発行されて、小さなアンサンブルが各家庭で行われるようになりました。会員は70才以上の人から16才の高校生まで、主婦から社長さんまでさまざまです。

公開レッスンや、地域の合奏会なども企画されています。

入会金は1000円、会費は年1200円です。申込パンフレットは、お茶の水下倉楽器、渋谷ネロ楽器、後楽園チャキ弦楽器にあります。



日本アマチュア演奏家協会（略称APA）　設立準備東京連絡会
Amateur Players' Association, JAPAN

〒167 杉並区荻窪3-13-15 東荻窪マンション413号
TEL 391-9186(井上)　0424-73-7904(太田)　700-1367(左治木)